

講義録

横浜市立大学学術情報センター市民講座『地域通貨の可能性～”ひと”と”まち”の再発見～』
第五回 平成 14 年 12 月 5 日

「グローバル社会のなかでの地域通貨」 講師：毛利勝彦 横浜市立大学国際文化学部助教授

要旨

グローバル社会のなかでの「通貨」の変遷を踏まえ、横浜市の地域通貨のアイデアを持ち寄る。

1. マネーの変遷とバーチャル通貨

戦後国際政治経済体制の崩壊

- ・ プレトンウッズ体制の崩壊とグローバリゼーションの波 アジア通貨危機
 - ・ そのなかでのワールドカップ大会。例えば、「平和のための世界通貨単位（W-CUP）構想」（決勝戦開催地・横浜からの提案）
 - ・ 為替変動リスクを避け、開催地やサポーター・コミュニティを活性化。
 - ・ 使用期限を設ける 開催地で必ず使用され、経済効果が高い。
- 進化するマネー

マネーとは・・・価値表示 / 交換決済 / 価値保蔵 / 投機手段 / 支配手段

- ・ 国内通貨（中央銀行が紙幣発行） 国際通貨（金本位制；民間主体が国際準備） 基軸通貨（金為替本位制；国家主体も国際準備） バーチャル通貨（相場変動への対応）
- ・ バーチャル通貨：（プレトンウッズ体制崩壊後の多様な主体による対応）
国家主体による「信認」の再構築 地域レベルの ECU（欧州通貨単位；現在はユーロ）
グローバルには国際通貨基金（IMF）の SDR
市場主体による「信用」の再構築 デリバティブ（金融派生商品）を組み合わせ、リスク回避。
市民社会による「信頼」の再構築 環境保護、コミュニティ開発、経済振興を目的とし、空間限定的で時間限定的な地域通貨が広まる。

2. プレーンストーミング討論「横浜の地域通貨をデザインする」（いつ？ どこで？ 誰が？ 運営方法は？ 目的は？）

講師のアイデア：「YCU」（横浜通貨単位。横浜市立大学の英文略称でもある。）

毎年度、市内で、市立大学が、ボランティア活動（例えば、留学生のホームステイ受け入れなど）と市立大の研究・授業参加を交換し、国際交流や生涯学習を広めてい

く。

参加者 T さんのアイデア：「ジャズ」

野外ジャズ祭にあわせ、まずは A 区で(他のジャズ祭と連携できれば拡大)、実行委員会(ボランティア)を組織し、コミュニティウェイを応用したプロジェクト志向の地域通貨を運営、活力のあるイベントに地域通貨を絡め、一時的でなく息の長い地域活性化を図る。

参加者 H さんのアイデア：「テラ」

毎月 10 日、20 日は零の市、30 日は晦日市、理解ある行政施設で、組織ではない住民個人が、フリーマーケットのイメージでテラ(交換機能に特化したマネー)を媒体に交換市を開き、ボランティアの原点となるような精神的な欲望を引き出していく。

参加者 O さんのアイデア

準備が整い次第、地区レベルから区単位まで、地域団体、商店街、町内会が中心となり、発行、運営団体を作ることで、地域人材・団体の力を非営利の形で活用する。

参加者 Y さんのアイデア：「浜っ子」

来年度、K 区を中心に、市立大学と関東学院大学と共同で、例えば、課外活動で空き缶拾いを行い、出席 3 回分の価値をつけることで、インセンティブを引き出す、市場で評価されない環境に値段をつける+古くから独立性のあった K 区のコミュニティ作り。

参加者 S さんのアイデア：「ヒット」

総合学習の時間に、小中学校や高齢者施設で、生徒と高齢者が、自分ができるサービスを交換、得点を通帳に記入する方式(一壘打：まあまあいい～ホームラン：最高!)、高齢者の知恵、経験を生かし生徒の能力、想像力を開発。「張り」のある高齢者と、他人への「想像力」ある子供たちのいる地域づくり。

参加者 A さんのアイデア：「ライス」

平成 15 年から、M 区の水田で、水田保全に関わる農家とボランティアが、1 ライス=1 円を 10、50、100、500 単位で発行し、水田保全ボランティアで入手、収穫物と交換(将来は他の農産物にも適用) 水田保全活動の活性化。

参加者 T さんのアイデア：「パクリン」

準備が整い次第、身近な公園から、公園利用者、公園愛護会、他、公園愛護会が(パクリン)を発行、美化活動に参加して入手。地域の商店やオフィス、住宅、学校とのやりとりを通じ、公園の活性化(利用者コミュニティによる運営、隣接する焦点等との楽しい交流)を図る。

上記の他、当日の討論では、横浜中華街における地域通貨の発行なども提案され、活発なパネル討論と質疑応答が行われた。なお、これらの提案はブレインストーミングとしてなされたもので、必ずしもその実現が前提にされているものではないものもあります。

(STAFF : 金子 友美 久原 晃子)